

はじめに

本事業のねらいは、本校の立地条件や地域的特性を活かしながら、本校の教育方針である「心のゆたかな人間を育てる」に不可欠な生徒の福祉・ボランティア精神の育成に資するその具体的実践の場を積極的に設けることにある。但し、既に実施している行事との関わりを持たせたり、平成15年度（新教育課程）から実施の「総合的な学習の時間」に結びつけたりするなど、無理なく、長続き可能なものとして位置付けることとする。

1 本校における体験活動の種類

- (1) ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動
- (2) 自然に関わる体験活動
- (3) 文化や芸術に関わる体験活動
- (4) 交流に関わる体験活動

2 平成14年度体験活動報告（概要）

- (1) 学校周辺の道路や自分の通学路の清掃（草取り・ゴミ拾い）

1学期終業式の日の大掃除において清掃班を校外にも割り当てた。また、生徒全員にビニール袋を配付し、帰り道のゴミや空き缶を拾うように指示した。



- (2) 沖縄と富士北麓との比較（対象：2年生全員）

修学旅行の3日目、班別自主行動の中で、沖縄の自然を観察し、富士北麓地域との違いを知り、地域の自然を守る大切さを確認させた。



また、修学旅行を通して、空港・乗り物・宿舎・町・見学場所において、障害者などに対する様々な配慮（バリアフリー）の事例、逆に障害になるであろう事例を調査し記録させた。旅行後報告書を提出させ、修学旅行展にて特別コーナーを設けその発表を行った。

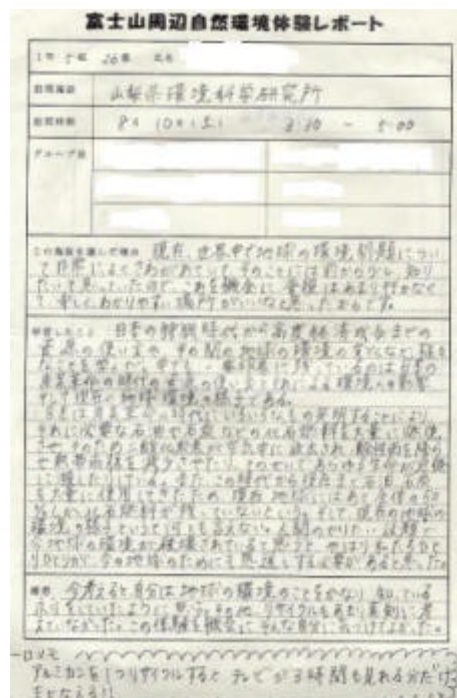


(3) 近隣施設の見学（対象：1年生全員）

各HR単位（班別行動）で夏休みを利用し、1日間近隣施設での自然体験・学習活動を行った。2年次の修学旅行の事前指導の役割も果たし得た（レポート提出）。平成15年度は「総合的な学習」の時間として位置付けて実施予定。

利用施設

- 富士吉田市歴史民俗博物館・河口湖自然生活館・河口湖クラフトパーク・大石紬伝統工芸館・河口湖町営河口湖フィールドセンター・山梨県立富士湧水の里水族館・河口湖ハーブ館・なるさわ富士山博物館・富士五湖西湖野鳥の森公園及び西湖蝙蝠穴・環境省自然環境局生物多様性センター・山梨県環境科学研究所 等



(4) 樹海の自然に親しみながらの清掃活動(対象:2年生全員)

11月6、7日にクラスごとに自然観察員に1名ついてもらい樹海内の観察や説明を聞きながら、ゴミなどの回収を行った。



(5) スキー教室における自然体験(対象:1年生全員)

河口湖町のスキー連盟の方に指導をお願いして、雪山の自然に親しむと同時に、救急処置法などを学ぶ。(2月12~14日実施)

(6) 生徒全員に呼び掛けての福祉体験活動。

生徒会が中心となり、「河高ボランティア講座全4回」を企画し、参加を呼び掛ける。全講座終了した生徒には修了証を渡す。

〔7月...学園祭の企画、夏休み... (社会福祉協議会主催) 夏休み体験ボランティア・老人介護・保育・障害児との交流等、10月...手話教室、2月...リハビリ研修会〕



ボランティア委員会が中心となり、「使用済み切手収集」(福祉協議会へ)「ベルマーク収集」、「書き損じ葉書収集」(視覚障害者協会へ)「赤い羽根共同募金」等の呼び掛けを実施。

10月18日に「茶道部・家庭クラブ・吹奏楽部・音楽部等」による地域のお年寄りと

の交流会を実施。



12月18日に「ふじざくら養護学校」との交流会を実施。



3 今年度の反省と来年度以降への課題

- (1) 学校内での活動ではなく、地域の施設、団体と協力しての活動が多く、新規に活動を計画したものの中には日程の調整や連絡などが円滑にできないことがあった。長く活動を続けていくためにはこの点を改善する必要がある。
- (2) 事前準備の時間が足りずに計画の実行のみが優先されて、職員・生徒全体に活動のねらいや意義を深く浸透させるには至らなかった。来年度以降は「総合的な学習の時間」とも連動させて、事前準備にも十分な時間がかけられるようにしたい。

おわりに

福祉・ボランティア活動を中心にした本校の体験活動については、生徒会のボランティア委員会を中心に優れた実践がなされてきたが、今回のこの事業により地域的にも学校全体の生徒へも啓発出来るようになった。さらに、この事業を通して、各行事のねらいや意義を見直す良い機会となった。今後、その行事のもつ教育的効果を再認識し、限られた時間の中でさらに効果を上げるにはどうすればよいのかを真剣に考えていく必要性も感じた。